

	しかの耳を引っぱって <u>言</u> いました。	67	五色のしか
	「この男が知らせてくれたのだ」と <u>言</u> いました。	68	

② 思うこと。見聞したことを表す。

学年	文	例	ページ	題材名
1	ありは、おれいを <u>い</u> いました。		44	ありとはと
上	はとは、おれいを <u>い</u> いました。		47	
1	おや、おやわる口を <u>い</u> っているぞ。		91	チックと タック
3	ぜいたくを <u>言</u> うな		53	ピノッキオ
	こっそりおれに <u>言</u> え。		92	太郎こおろぎ
	自分の消しゴムを取りに行ってくれた太郎を先生に <u>言</u> うのは悪いと思いました。		96	
3	くさいとかきたないとか <u>言</u> ってはられません。		8	とらの子のおかあさん
	「～ なんとお礼を <u>言</u> っていいかわかりません。」		62	

	わたしに会ったことをだれにも <u>言</u> わないと～	63	五色のしか
	なんとお礼を <u>言</u> っていいかわかりません。	69	
下	王様はしかの <u>言</u> うことをじっと聞いて～	69	

③ (ある人物、事柄などを～と)呼ぶ。名づける。称する。

呼		ぶ		
学年	文	例	ページ	題材名
1	くだものやと <u>い</u> うかわりに～		42	ものの名まえ
	りんご、みかん、バナナ、レモンなどをうるみせとでも <u>い</u> わなければ～		42	
下	いろいろなものを一つ一つ <u>い</u> いあらわしたりまとめてひとこと <u>い</u> いあらわしたり～		43	
2	大国主と <u>い</u> うかみさまがいました。		53	小さなかみさま
	かた雪と <u>い</u> います。		82	